

SHOBAININ INTERVIEW Vol.20

焼肉きんぐ松戸八ヶ崎店 店長

實川 悟士

振り返りと成長の物語 〈使命と最優秀プレジデントへの道〉

振り返ると、私は常に物事に対しての理由付けや時には自分にノルマを課し、それを全うすることに使命感を持って生きてきました。大学生の時に先生の助言でバックパッカーをしました。ギリシャへと旅立ち、ミコノス島を訪れた際は、その美しさと壮大さに感動し、人生における大きな転機になりました。その後もイタリア、フランス、ヨーロッパなどさまざまな国を巡り、現地の人々との出会いや景色から得た感動は、私の人生観を大きく変えました。先生の助言がキッカでここまで自分の人生観が変わったことで人が人に与える影響の偉大さに気づくことになりました。

就活も「人」にフォーカスを当てて仕事を探していた中、会社説明会で物語コーポレーションと出会いました。印象的だったのは人財開発部の方々が私たちにプライベートの相談に乗ったり、ともに食事をしてくれたりと距離感近く接してくれたことに感動しました。初の配属店舗は当時、新店の富士店でした。オンライン研修を受けながらオペレーションのスタンダードを学び、実務を習得していききました。店長に昇格するまでは上司から指示を受けるのではなく、自ら理由を作って行動することが習慣となっていました。例えば商品である「ふわふわ玉子スープ」はふわふわでなければいけないと考え、どうやったらふわふわになるのか考え拘ったり、通勤中や家族で外出する際に変わった業態名の看板があればその名前の由来を調べたり理由を考えることが楽しみでした。しかし、仕事面では2番手になった頃から自ら行動し過ぎてしまい、店長との考え方の違いから遠回りをすることもありました。

店長昇格後は迷いなく行動できるようになりました。反面、部下教育に苦労しました。自分が全てやっしまい、結果的に実の伴わない状況が続きましたが、成果は挙げてきたことで評価されました。特に当時一番カルビだった豊川店の閉店、上島店のリニューアル、江戸川台店での新キッチンレイアウトの検証、OS配属は大きなプレッシャーを感じました。いつも課題に一人で立ち向かってしまい、一人で考え、行動してきたため自分は与えられた物に心えることしかできないと考え、自暴自棄になることもありました。

松戸八ヶ崎店に配属されてからは、そんな自分を変えるためにDaisさんと協力し、自分が前に出さずコツコツと店舗の状態を安定させることに力を注ぎました。その結果、事業部のテスト店や研修店舗に選ばれるようになり、今までは違いました。自分ではなく店舗状態が評価されるようになりました。その瞬間、初めて手応えを強く感じました。

ファミリーコンベンションでは、店舗としての賞を取れなかったことに本当に残念な気持ちになり、その後、個人として表彰された際は喜びとともに後ろめたい気持ちもありました。しかし、店舗の皆はとも喜んでくれ、それを見て非常に満足感を感じました。帰りの道中、妻に報告した際も人生で最も喜んでくれた瞬間であり、明日も頑張ろうと思えました。

これからもチームとして挑戦を続け、学びを活かし、新たな高みを目指していきます。

實川 悟士 じつかわさとし
1988年8月27日生まれ
埼玉県出身
2011年4月 入社 焼肉きんぐ富士店配属
2012年4月 主任昇格
2013年4月 副店長昇格
2014年5月 店長昇格 四日市日永店
2021年10月 焼肉きんぐ松戸八ヶ崎店配属
2023年1月 上級店長昇格
2023年7月 焼肉事業部 最優秀プレジデント賞受賞